

中山道69次を歩く(2)

蕨宿から横川まで、男性も参加



なっている浦和宿へ。さらに古中山道が通っていたという武蔵国一宮・氷川神社の一の鳥居をくぐり、ケヤキ並木の参道を森林浴気分歩き、朱塗りの華麗な門に圧倒され、本殿に参拝。ただ、大宮宿は繁華街になってしまい、宿場の名残は「本陣跡」の看板ぐらいだ。

第3回は9月26日、第5次・上尾宿から第9次・深谷宿まで。桶川宿は江戸時代、武州紅花の集散地として栄えたとのことで、土蔵造りの商家などが今も残る。深谷宿は旅館屋が80あり、中山道69宿のなかで最も多かった。特に飯盛女を置いた旅館屋が多く、旅人は宿場の外れの松のところで前夜の思いを胸に振り返ったとか。

日本橋・道路元標から始まった中山道の旅。第2回からは男性も加わって一層楽しい旅になりました。一緒に歩きながら街道、宿場の今昔に思いをはせ、それぞれが感想を言い合って歩く旅は楽しい。「旅は道連れ」とはよく言ったものです。

第2回は6月7日、第2次・蕨宿から第4次・大宮宿まで。蕨宿は戸田の渡し川の留めに備えて2つの本陣があり、旅館屋や商家も多かったという。本陣は現在、歴史民俗資料館になっている。また、古い商家や土蔵が所々に残っていて、宿場の面影を今に伝えている。焼米坂を上り、県庁所在地と

場。新町宿の於菊稲荷や倉賀野神社には、飯盛女奉納の絵馬などがあり、宿場の繁栄を陰で支えた女性たちの気持ちを思いやった。高崎宿は城下町のため、旅館屋のみで、本陣、脇本陣は置かれなかった。江戸時代、高崎城下は「お江戸見るなら高崎田町」と謳われたにぎわいだっただけというが、現在の高崎城址は乾やぐらと東門が復元されているのみで、お堀の内には、市役所の高層庁舎、シテイーホールなどが置かれている。

第5回は11月29日、第14次・板

真田氏の故郷を訪ねて

「女性同窓生の集い」に29人

鼻宿から横川まで。安中宿は大名小路に郡奉行宅や武家長屋が復元され江戸時代にタイムスリップ。松井田宿は妙義山がせまり、前方には碓氷峠を望む山間の宿場。横川との間の五料には茶屋本陣とおお東の両家が当時の姿に復元、公開されており、立派な松の庭を眺めて感想を述べ合っている。時のたつのを忘れてしまう。

一時校名にも入っていた「松尾」は古松尾城に由来していたり、校旗の六文銭や校門など上田高校にとつてなじみの深い真田氏ではありますが、ゆかりの遺跡があることなど初めて知りました。これをきっかけに「歴女」に変身して、さらに真田の地を歩いてみようなどという声が増えてきました。今回の参加者は69期を中心に52期から78期までの29人。同窓会理事長の日置さんや男性会員の参加もありました。

清水計枝(64期)

昼食は、真田氏歴史館で懇親会を兼ねて和やかに行われました。そばやうどんのすいとんに、ごまとかクルミのおはぎというメニューに、差し入れの手作りの漬物や花豆の煮豆、果物やお菓子が色を添え、素朴ながら心温まる豊かな宴となりました。初めてお会いする先輩や後輩の方々と会話がありました。

在住の4人がお骨折りにくさいまま訪ねて。講師の児玉卓文氏(66期、長野県歴史館文庫資料課長)の案内で日向畑遺跡、長谷寺、真田本城跡、お屋敷公園を訪ねて歴史散策のひとつを過ごしました。

私は14回目にして初めてこの集いに参加しました。昨年まで同窓会にも同期会・同級会にも関心がありませんでしたが、ご縁があった関東同窓会の役員をお受けしました。高校を卒業して40年、新たな出会いと緩やかな人の輪の広がりの中で、「新しい自分」を見つけたいと思います。

10月31日、旧真田町において「第14回女性同窓生の集い」が開催されました。今回の幹事は69期で、木曾泰子さんを中心に上田市



で、木曾泰子さんを中心に上田市